



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

冬だからこそころ暖まるフットケアを！

[当法人理事]

武蔵野赤十字病院

豊島 麻美 [看護師]

冬になると足壊疽を発症した糖尿病の救急患者さんが増えるな—とずっと前から感じていました。「糖尿病ネットワーク」の1月19日付けの ホームページにこのような記事が載っていました。

糖尿病のある人は寒い冬にはフットケアにとりわけ注意する必要がある。冬に足を健康に保つために、米国足外科学会(ACFAS)は次の5つのアドバイスを発表した。

「糖尿病患者さんの足の病気の直接的な原因としては、神経障害と血流障害の2つがあげられます。さらに、高血糖の状態が続くと免疫力が低下します。そうなると皮膚への細菌感染が起こりやすい状態になります」と、アンブロジャック氏は説明する。

1 足を毎日チェックする 2 足が濡れたときはしっかり乾燥させる 3 冬は足も乾燥しやすい。保湿して乾燥対策を 4 神経障害が進行すると、温度に対する感覚が鈍くなる 5 「低温やけど」に注意 暖房器具を高めに設定したり、長時間使用しない

本会報誌をお読みくださるメンバーには「当たり前の事」という記事かも知れませんが、あなたが関わる患者さんお一人おひとりの血糖コントロール状況や、合併症の程度を知ったうえで、更に季節を意識したフットケア指導を行なっているでしょうか？何度注意しても低温やけどを繰り返す患者さんや、いくら言っても靴下をはかない患者さん。その行為の奥にある「思い」に触れることが、まずは大事なかかわりの一歩と感じます。

当法人では昨年事業の一つとして「糖尿病フットケアセミナー IN 多摩」が運営されており、昨年はフットケアに携わる看護師を対象に2回のセミナーを開きました。本セミナーの特徴はステップ・バイ・ステップの形式で、主にフットケア技術を磨く事を強化しました。受講者からは、丁寧な技術指導に満足感が高かったようです。

ちょうど今夜、来年度のセミナー開催に向けた世話人会を終えたところです。次のステップとして、前回受講した方を対象に、足の診かたとアセスメント、さらに適切な靴の選び方についての技術を学んでいただく「アドバンスドセミナー」に発展させる方向性が定まりました。講師には、他ではあまりお話しを伺えない先生に御講演を賜る交渉が始まります。

フットケアを行うためには、知識と技術は両輪でどちらも欠かせないものです。ですがお一人おひとりの足に関心を向ける「行為」を置き去りにしては何も始まりません。

まだまだ寒い日が続きます。あなたの気になる患者さんの「足とそころ」に関心を寄せ、そっと触れてはいかががでしょう。



読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 災害時の対処方法について正しいのはどれか、1つ選べ。

(答えは6ページにあります。)

1. 炭水化物はできるだけ摂取しないようにする。
2. 災害時の内服方法を普段から主治医と相談しておく。
3. 消毒綿がないときは注射を中止する。
4. かかりつけ医を探して処方依頼を依頼する。
5. インスリンの貸し借りをしても感染の危険はない。



報告

第9回多摩糖尿病先端医療研究会

日時:平成28年10月26日(水)

場所:ホテル日航立川

第9回を迎えた多摩糖尿病先端医療研究会が、10月26日(水)にホテル日航立川東京にて開催され、92名の医師、看護師、薬剤師など、幅広い職種の方々にご参加なさいました。

本研究会の主な目的は大きく2つです。1つは西東京で活躍する若手医師、糖尿病治療に従事するスタッフの育成、もう1つは世間一般的なエビデンスではなく、演者の先生方自身の考察を基に発表内容を構築することによって、外に向かって情報発信をすることです。これらは発足当時より、世話人の先生方から次世代を担う若手医師達に脈々と受け継がれています。

今回は「肥満2型糖尿病薬物療法の再考」を研究会テーマとし、熱い議論が繰り広げられました。第1部では当番世話人の杏林大学大学院医学研究科近藤琢磨先生より「肥満2型糖尿病へのアプローチ」と題したショートレクチャーをご講演頂き、第2部では「肥満2型糖尿病の薬物療法は?」をテーマにインクレチン関連薬チーム(武蔵野赤十字病院内田諭先生、公立昭和病院本田一春先生)、SGLT2阻害薬チーム(多摩総合医療センター川崎元樹先生、多摩丘陵病院栗栖啓充先生)に分かれ、提示された症例に対してどちらの薬剤を選択するか、のディベートを行いました。有効性やエビデンスだけではなく、安全性や患者さんの生活背景にも焦点をあて、適正使用の観点を中心とした興味深いディベートとなりました。

報告

第46回糖尿病食を作って食べて学ぶ会

平成28年10月18日(火)立川市女性総合センターアイム

平成28年11月18日(金)ルミエール府中

【本法人会員】 本法人登録管理栄養士 江戸川区医師会医療検査センター 土井 信子 【管理栄養士】

「第46回糖尿病食を作って食べて学ぶ会」を10月18日に立川、11月18日に府中で開催し、計34名の参加がありました。今回は「始めよう!骨粗しょう症予防対策」というテーマで、骨粗しょう症予防に必要なカルシウムやビタミンDを多く含む食材である豆腐・小松菜・鮭等を取り入れたメニューを実習しました。

レクチャーでは骨粗しょう症予防の食事の注意点について、バランスの良い食事を基本とし、骨太になる栄養素摂取、運動習慣、日光浴が大切だと説明しました。

参加者からは「いつもの豆腐が主菜になり食べごたえがあった」「味噌汁に牛乳を入れると塩分が控えられた上に、美味しかった」「甘鮭の塩味だけで野菜の小鉢料理ができ、家でも作ってみたい」等の声が聴かれました。

これまで「糖尿病食を作って食べて学ぶ会」は年8回の開催でしたが、来年度は年4回の開催になります。次回第47回調理実習は2017年4月立川、5月府中にて開催します。内容は魚料理を予定しております。詳細については事務局にお問い合わせください。皆様のご参加をお待ちしております。どうぞ宜しくお願い致します。

今回のメニュー

- ・もち麦入りごはん
- ・豆腐ステーキきのこソース
- ・小松菜と鮭のみぞれ和え
- ・醒醐汁
- ・白ごまプリン

第46回
調理実習

●エネルギー 543kcal ●糖質 70.7g ●食物繊維 8.0g ●塩分 2.2g ●鉄分 3.0mg
※栄養成分表示は1人分です

参加者の
声
アンケート
より

- 😊 見た目よりボリュームがありよかったです。きのこ類がいっぱいでしたが火を通したら少なくなつて、いっぱい食べられてよかったです。
- 😊 青菜のお浸しだけだと飽きてしまうので、鮭と和えるととてもおいしくカルシウムも取れるのでやってみたいと思います。
- 😊 味噌汁と牛乳をあわせたスープがとてもおいしかったです。

報告

第31回武蔵野糖尿病研究会

日時:平成28年10月29日(土)

場所:三鷹産業プラザ

平成28年10月29日(土)三鷹産業プラザにて、『第31回武蔵野糖尿病研究会』が開催されました。

基調講演は、「QOLを考慮した透析予防外来治療」を長谷川亮先生(多摩センタークリニックみらい)にご講演いただきました。早期の介入と繰り返しの指導で悪化時も回帰が可能であり、相当な増悪時にも予後を維持しうる治療をあきらめず行い状態が悪い時こそ短期間で頻回に受診し薬剤調整をする。これらを行うことで、たとえ悪化しても、信頼関係を損ねずに次の治療に前向きに取り組むことができるとお話いただきました。

特別講演は、柴輝男先生(東邦大学医療センター大橋病院 糖尿病・代

謝内科 教授)より「糖尿病と心血管系疾患」をご講演

いただきました。海外大規模臨床試験の解説から糖尿病と心血管系疾患との関わりについて、またインクレチン関連薬と冠動脈疾患について詳しく解説していただきました。インクレチン関連薬が心血管系疾患を減少させた最新の海外データも発表していただき今後も心血管系疾患を減少させることが期待できる新薬もあるとご紹介いただきました。

当日は44名の先生方にご参加いただき、質疑応答でも活発な意見交換がされ有意義な会となりました。



柴先生



報告

第21回糖尿病療養担当者のためのセミナー

日時:平成28年11月13日(日)

場所:東京経済大学

2016年11月13日に、『第21回糖尿病療養担当者のためのセミナー』が開催され、203名の方々にご参加いただきました。当セミナーは午前が講演会、午後は昼食セミナー(講義)及び分科会(グループワーク形式中心)となっています。

午前の部では、高村内科クリニックの植木彬夫先生より『高齢者糖尿病患者の管理目標値について』の演題で御講演いただきました。

次に特別講演として日本大学病院・小児科・教授の浦上達彦先生より『小児糖尿病UPDATE』と題して御講演をいただきました。浦上先生の御講演では、小児1型糖尿病の発症に関する環境因子や診断のポイントの説明から入り、実際の治療、特にインスリン療法やCSIIについて、文献や臨床研究に即して詳細で具体的に話をして頂きました。また小児2型糖尿病や小児科から成人科への移行、トランジションについても話が展開され、非常に興味深い内容でありました。

研究発表では昨年の学会等で報告した、当セミナーの研究内容の発表が行われました。

午後の部の昼食セミナーは専門の先生方による講義形式で、糖尿病治療に関連した幅広い情報提供がな

されました。また分科会は全員参加型のグループワークが中心となっており、職種・施設の壁を越えての活発な意見交換や情報共有の場となりました。参加して頂いた皆様には、当セミナーを通じて得られた『学び』『気づき』を今後の診療の一助となる事を切に願っております。



報告

臨床糖尿病支援ネットワーク 第60回例会

日時：平成28年11月26(日)
場所：八王子労政会館

[本法人会員] 第60回例会当番幹事 東京医科大学八王子医療センター 大野 敦 [医師]

第60回例会は、「妊娠と糖尿病」をメインテーマに掲げて、11月26日(土)に八王子労政会館・ホールで開催されました。会場の確保までに時間がかかり、かつ会場の上層が体育室という構造のために騒音が続き、参加者の皆様に御迷惑をお掛けしましたことをまずはお詫び申し上げます。

第1部の西東京地域の糖尿病療養環境の現状と展望では、企画委員会(住友理事)・医療支援事業(高村理事)・IRB事業(植木業務執行理事)の各現況と今後の展望を講演して頂きました。当地域の社会的ニーズに合わせた活動を展開しながら、それを支える次世代のメディカルスタッフをいかに育成していくかが改めて問われていると感じました。

第2部の妊娠と糖尿病：それぞれの立場から行う糖代謝異常合併妊産褥婦への管理・援助では、杏林大学医学部付属病院の5名の講師に御登壇頂き、糖尿病専門医(小沼裕寿先生)・産婦人科医(古川誠志先生)・看護師(下田ゆかり先生)・栄養士(栗山絹世先生)・助産師(高橋久子先生)の各立場からお話を伺い、それを踏まえてパネルディスカッションを行いました。事後アンケートでも、演者が一施設に統一されている会はありませんとの御意見を頂きましたが、毎月開催される多職種でのカンファレンスを含めて、「杏林ワールド」ともいえる

妊娠中の糖尿病の管理ならびに産後のフォローアップに対するチーム力の素晴らしさを見せて頂きました。

アンケート結果では、厳しい聴講環境にもかかわらず参加者から高い評価を頂くことができ、御講演頂きました各先生方に厚く御礼申し上げます。特に第2部の講師の選定を含めて、プログラムの構成に御尽力頂きました高橋久子先生に感謝申し上げます。



住友先生



高村先生



植木先生



小沼先生

古川先生

下田先生

栗山先生

高橋先生



😊 今回は杏林大学においての妊娠糖尿病管理について学ぶことができ、大変貴重な機会となりました。

😊 患者の理解力、生活習慣は様々であり、各々に応じたサポートを行うことの重要性を再認識しました。

😊 産科医から、胎児とNSTについてなどのお話が聞けてよかったです。

😊 友人が妊娠糖尿病になったことで興味を持ち参加しました。実際の体験を混ぜた詳しい話など、勉強になりました。

😊 助産師もきちんとGDMの疾患理解をしていないと前向きな気持ちになりました。

😊 今後糖尿病の妊産褥婦さんに関わっていけるよう頑張ります。ありがとうございました。

😊 どれもわかりやすく良かった。「妊娠と糖尿病」とも良いテーマです。

報告 第17回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会

日時:平成28年12月3日(土)
場所:たましんRISURUホール

2016年12月3日(土)、たましんRISURUホールにて、第17回西東京EBMをめざす糖尿病薬物治療研究会が開催され、糖尿病治療に携わる医師やコメディカル、総勢67名の先生方にご出席頂きました。

今回は「肥満を伴う糖尿病治療」をテーマに、特別講演1では、東京都立多摩総合医療センターの辻野元祥先生より内科的なお立場から、肥満糖尿病患者への生活指導の実際についてというテーマで、糖質制限食からSGLT2阻害薬やGLP-1受容体制剤などの薬剤、そして高度肥満に対する内容でご講演頂きました。特別講演2では、東京都立多摩総合医療センターの清水英治先生より、総合的肥満症治療における外科治療の位置付けをテーマに、外科的なお立場からご講演頂きました。

また、症例検討会では、かんの内科の菅野一男先生から「体重減少のため試行錯誤を重ねた1症例」について、東京医科大学の植木彬夫先生からは「体重を減らすべきか?HbA1cを改善すべきか?確実に成果を上げるには?」についてご発表頂きました。具体的な症例を元に、幾つかのクイズを出題頂き、5つの選択肢の中からご参加された先生方から回答頂きながら、参加者を交えて熱い議論が交わされました。



報告 第38回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

日時:平成28年12月10日(土)
場所:イオンモール多摩平の森



宮川先生

平成28年12月10日(土)午後2時より、日野市にある「イオンモール多摩平の森・イオンホール」にて「第38回東糖協多摩ブロック糖尿病教室」が開催されました。当日は43名の参加者がお越しになり熱心に聴講して頂きました。会は東京都糖尿病協会 副会長 クリニックみらい国立 院長 宮川高一先生の挨拶で始まり、多摩センタークリニックみらい 看護師 箱木まゆみ先生司会のもと、「糖尿病患者さんの「認知症」を遅らせるコツ伝授します!」の演題で、医師の立場からは東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科 科長 大野敦先生、食事指導の立場からは東京医科大学八王子医療センター 管理栄養科 深谷祥子先生、運動指導の立場からは多摩センタークリニックみらい 馬場美佳子先生、薬物指導の立場からはウラン薬局薬剤師 高山千佳子先生にそれぞれ御講演いただき、糖尿病と認知症の関係や仕組み、これらができる予防法などを参加者の方へわかりやすく幅広い内容で解説して頂きました。



第2部の『ぜひ聞きたい!あんな疑問?こんな疑問?コーナー』では大野先生司会のもと、箱木先生、深谷先生、馬場先生、高山先生に会場からの認知症に関する疑問・質問に対して看護・食事・運動・服薬それぞれの見解をわかりやすく丁寧にお答えいただき、大盛況の中、会は終了しました。

第54回関東甲信越地方会

平成29年1月21日(土)

パシフィコ横浜

[本法人会員]

東京都立多摩総合医療センター

佐藤 文紀 [医師]

1月21日にパシフィコ横浜で開催された、第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会に参加しました。同じパシフィコ横浜で開催されたジャパンフィッシングショー(釣りのイベント)の長蛇の列に誤って並びそうになりながら会場入りしました。

教育セミナー「ライフステージごとの糖尿病への対処」を拝聴しましたので、それぞれの講演から印象に残ったものを中心にご報告いたします(全てが“HOTトピックス”ではないかもしれませんがご容赦ください)。

浦上達彦先生(日本大学)「小児・思春期における糖尿病」:小児においてもSAPの使用が増えているが、センサーグルコース値に振り回され、管理に熱中してしまうSAP依存症が問題であると指摘がありました。これは成人についても留意すべき問題であり、SAP導入によって患者さんのQOLが低下する可能性があることを再認識しました。

荒田尚子先生(国立成育医療研究センター)「妊娠と糖代謝異常」:非妊娠時BMI ≥ 25 のGDM患者さんは産後のOGTTで正常型であっても5年以内に半数がDMを発症する(OGTTで糖尿病型)というデータを示されました。普段、GDMの診療を行っている者としては非常に衝撃的な内容でした。

小沼富男先生(順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター)「高齢者糖尿病の特徴と管理上の留意点」:食後代謝異常(食後高血糖、食後高脂血症)、インスリン抵抗性、インスリン分泌低下といった高齢者の特徴を示されました。高齢者では砂糖・甘味・果物の摂取が多いというJ-EDITのデータも提示されました。サルコペニア予防の観点からはたんぱく質摂取が重要といわれていますが、砂糖・甘味・果物の過剰摂取は相対的なたんぱく質摂取の低下にも繋がるので、注意が必要です。

大橋健先生(国立がん研究センター中央病院)「糖尿病患者をがんで看取る時代～がん治療中の糖尿病管理と療養支援～」:糖尿病はがんに罹患しやすいというデータ(Lancet 375: 2201-2, 2010, 糖尿病56: 374-90, 2013)を示されました。ただし、喫煙の方ががんへの影響は大きく(肺癌は4.5倍!),まずは禁煙が重要とも言及されていました。糖尿病があると癌の予後が悪いこと(JAMA 300: 2754-64, 2008)も示されました。自分も悪性疾患を持つ糖尿病患者さんを診療することが少なくなく、大変勉強になりました。

この教育セミナーを通じて、多くの学びを得ると同時に、患者さんの人生に自分がどのように関わっていくべきなのか(糖尿病という一側面での関わりにすぎませんが)、改めて考えさせられた次第です。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 2 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. × 災害時は、「いつ」「どの程度」食料が手に入るかわからないため、配給されたものはできるだけ摂取するようにすることを優先に考える。
2. ○
3. × 緊急時は、消毒を省略しても注射を継続することを優先する。
4. × かかりつけ医がすぐに見つからない場合は、通常服用している薬剤を提示し、処方してもらうことができる。お薬手帳や薬品情報提供書等や、それらの写しなどで処方可能となる場合が多い。
5. × ペン型インスリンは、薬液と人体がつながるため、血液や体液が薬液に逆流する可能性がある。他の人がその薬液を投与することで感染の危険性があるため、新品以外は使用しない。

【会員の皆様へ】会報2月号の掲載に誤りがございました

このたび、当法人機関紙mano a manoの「読んで単位を獲得しよう」の解答・解説欄において、誤った解答が掲載されてしまいました。皆様には大変ご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。

解答には「1, 3」とありますが、正しくは「1」のみで、解説は正しい内容となっております。

原因は校正の過程におけるミスですが、今までも校正には注意を払ってきたにもかかわらず、このような結果となってしまいました。今後、再びこのような間違いが無いよう、委員会をあげて再発防止に努めて参ります。

重ねて深くお詫び申し上げますとともに、今後共よろしくお願ひ申し上げます。

広報委員会 委員長 西田賢司

報告

臨床糖尿病支援ネットワーク創立記念式典

日時:平成28年12月20日(火)

場所:武蔵野公会堂

開会にあたって、貴田岡正史代表理事より一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク創立について、経緯説明とその意義について挨拶があった。武田純教授には、記念講演として「高齢者の生活を考えた糖尿病医療」をお話いただいた。最初に、岐阜県における高齢者糖尿病の実態を具体的な数字を入れて日本の現状の一例として提示され、高齢者の糖尿病治療について自らの研究成果を交えて、その基礎から臨床まで詳細にかつ分かり易くご講演された。また、メトホルミンとヨード造影剤使用について、日本における根拠のない造影検査施行前後48時間のメトホルミン休薬について言及され、国際的にみても他に例をみない我が国独自のやり方であることと、すでに岐阜県内では無意味な休薬をやらない事を徹底している実態を明らかにされた。医療現場において、十分な検証のないままにリスクを取らない方向での対応を取ることに警鐘を

鳴らしていただき、出席者一同深く感じる場所があった。講演終了後の質疑応答も活発に行われ、非常に有意義な一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワーク創

立記念式典となった。最後に、植木彬夫業務執行理事から講演内容のまとめと閉会の辞があった。



武田先生



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話ください。よろしくお願いいたします。

《1月より、2017年度年会費納入が始まりました》

●2017年度の年会費納入が、1月より可能になりました。会員継続される方は、ご自身の**会員マイページ**にアクセスいただき、「年会費納入のお願い」よりご納入をお願いします。

(納入期日:3月31日)

《お悩み**解決**会員マイページ Q&A》

『会員ID=メールアドレス』

Q. 会員IDとパスワードってなんですか？

A. 会員マイページでは、当法人にご登録されているメールアドレスを身分証明として使用しています。会員マイページにログインするためにログインボックスに入力する会員IDは、ご登録のメールアドレスとなります。また、パスワードとは、会員マイページに入るときに利用者が本人かどうか識別するための合言葉のようなものです。パスワードは利用者本人できちんと管理し、他の人に知られないように注意してください。また、会員マイページでお好きな英数字に設定できますので、定期的に変更するなどして、より安全に会員マイページをご利用ください。

Q. IDが今は使っていないメールアドレスの場合、どうしたらいいですか？

A. 登録されているメールアドレスが現在使用されていないものだったとしても、まずは、その登録されているメールアドレスを「会員ID」として、ログインしてください。その上で、登録されているメールアドレスを会員マイページの「会員情報の確認・変更」で変更してください。変更後は新しいメールアドレスが「会員ID」となりますので、忘れないようにお控えください。



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00/13:00~16:00にお電話くださいますようお願いいたします。

Q. 年会費や研修会参加費を支払った際、手続きの完了を知らせるメールが届きません。

A. 当法人ホームページを通じて申込みや支払いを行った際、ご登録のメールアドレスにお知らせをお送りしております。もし、届いていない場合は、会員マイページにて「お申し込み中の本法人主催セミナー」や「年会費入金状況確認」、「その他の入金履歴」より手続きが完了しているか確認してください。その上で、「会員情報の確認・変更」より、登録されているメールアドレスの記載に間違いがないかを確認してください。お間違いのない場合は、ご登録メールアドレスは、何らかの原因で当法人のメールアドレスを受信できておりません。他のメールアドレスに登録変更することをお勧めします。

【メールアドレスの変更方法】

- 1) 会員マイページ「会員情報の確認・変更」の「代表メールアドレス(会員ID)」欄に新しく登録するメールアドレスを入力し、「認証コードを送信」ボタンをクリックする。
- 2) 1)で入力したメールアドレスに「臨床糖尿病支援ネットワークより、メール認証コードお送りします。」というタイトルのメールが届く。
- 3) 2)のメールに記載してある認証コードを会員マイページ「会員情報の確認・変更」の「認証コード」欄に入力し、画面最下部の「登録内容を変更する」ボタンをクリックする。



研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 直接事業 ◆ 間接事業 □ その他

◆ 第32回武蔵野糖尿病研究会

申込必要

テーマ：『糖尿病とがん』

開催日：平成29年4月8日(土) 14:50~16:30

場所：三鷹産業プラザ 7階会議室 (JR中央線「三鷹駅」南口下車 徒歩7分)

申込：FAX: 042-362-1602 参加費：500円

問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株) (担当・半田) TEL: 042-362-1601

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

<看護系> 第14回 西東京糖尿病教育看護研修会

<栄養系> 第14回 西東京病態栄養研修会

<薬剤系> 第14回 西東京薬剤研修会

<臨床検査系> 第2回 西東京臨床検査研修会

<運動療法系> 第2回 西東京運動療法研修会

開催日：平成29年7月9日(日) 9:25~16:55 (開場9:10)

場所：駒沢女子大学

(京王相模原線「稲城駅」下車 小田急バス約7分 または 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車 小田急バス約20分)

参加費：申込時期によって価格が変わります。

早割[3/9~5/21] 5,000円 / 通常[5/22~6/30] 6,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「平成29年度 西東京糖尿病療養指導プログラムの申込はこちらから」より

お申込みください。(6/30(金)締切)

詳細資料の
同封あり

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年の冬は特別寒かったような気がしますが、寒い冬ということで巻頭言ではフットケアの話題です。「何度注意しても・・・」のくだりには「あるある」と思った方も多いのではないのでしょうか？ 暖かくなっても油断はできません。また、HOTTピックスでは糖尿病学会 関東甲信地方会の報告を頂きました。日頃の診療に役立つ情報をいただいたのではないかと思います。終わりに、2月号での解答掲載ミスについて重ねて深くお詫言申し上げます。
(広報委員 西田 賢司)